

七九五年に書かれ、フィヒテの「自然法の基礎」はその翌年、カン
トの法律哲學は更にその翌年の刊行である。この事實は、たとへ
そこに影響的關係が認められないとしても、當時の思想界の状況
の興味ある一断面として哲學史家の注意を引くに足る。(岩波書店
刊行、定價貳圓八拾錢)(西谷啓治)

雜 錄

シュライエルマツヘル百年忌

「現代神學の父」シュライエルマツヘルの歿後早くも百年が経過
した。この二月十二日は彼の忌日である。

その計報に接して、教會史家ネアンデルは、「今や我々は、それ
から教會史上新しい時代が始まる人を失つた」と語つた。オット
ー・ブラウンのいふ如く、彼は一つの學派を創設したのではなく
一つの時期を劃したのであつた。哲學史をカント前と後とに分つ
やうに、神學をシュライエルマツヘルを境として區分することは
現に獨逸の學者の間に行はれてゐる。彼の最近の、そして最も鋭
い批評家の一人、エミール・ブレンネルはいつてゐる。「敬虔な一
般人士の間に現れてゐるものを考へても、或は神學に於て見るも
のを考へても、何處に於ても今日我々は、直接的に彼に溯り得ら
れるか、或は彼が最も明瞭に、最も古典的に表現した諸見解、諸
論證等に出會ふのである。彼こそ、當代の實際に偉大な神學者で
あり、いはゞ現代神學の根莖である。その地下に深く張つた根か
ら、現代神學の基督教的的神祕主義は芽生へてゐる」

併し、この神祕主義の根莖は少くとも辨證法神學にとつては掘
り返されるべきものである。カール・バルトは特に「神學と教會」
の一章に於て、又ブレンネルは「神祕主義と言葉」に於て、彼に

嚴しい批評を加へてゐる。バルトは「聖職に就いて」の講演に於て、キェルケゴールを経て、ルターとカルヴァンに、そして更にパウロとエレミヤに通じる血脈に就いて語つてゐるが、この彼等にとつて繼承すべき傳統から、斷然シュライエルマツヘルを除外してゐる。「彼の著作に現れた天才には勿論正當な尊敬を拂ふものであるが、シュライエルマツヘルを神學の良き教師だとは決して考へ得ない。人間は人間としては、自己の救済を必要とするばかりでなく、救済の望みの總てを斷たれてゐる。所謂宗教の總て、その何れよりも、基督教はこの救ひの必要に關與してゐる。ひとは、啞しく人間に就いて語るだけでは、決して神に就いて語ることは出来ないのである。しかるに、シュライエルマツヘルはこれらの事實を看取することが出来なかつたのであるから」

併し、此の如き、辨證法神學の總てが彼に向けてゐる、猛烈な辛辣な批評は、彼の神學の全體の再檢討を要求するものではなからうか。彼の神學は、トルルチのいふやうに、「今も尙ほ總ての學問的な神學の課題であり、たゞ解かれさへすればよいものである」か。或は辨證法神學によつて、「更正」されるべき誤謬であるか。ともあれ、シュライエルマツヘルへの復歸は語られるべきであり、又現に語られてゐる。

百年忌に際して、種々の學會の催し、書冊の刊行も豫想されるが、獨逸の「神學・教會雜誌」は、既に昨年十二月號をシュライエルマツヘルに捧げてゐる。

Zeitschrift für Theologie und Kirche. N. F. Jahrg. 14.

Heft 4. (Dez. 1933) Tübingen: G.C.B. Mohr. Einzelspreis für dieses Heft Rm. 3.50
Die Begegnung von Theologie und Philosophie bei Schleiermacher in seiner Reifezeit, von Anhur v. Ungen-Sternberg; Wegweisendes in Schleiermachers Lehre vom Erlösung und seinem Erlösung, von Th. Steinmann; Schleiermachers politische Ethik als Spiegel seines Denkens, von Horst Stephan; Schleiermacher und die neue Universität, von Otto Piper; Neuere deutsche Schleiermacherliteratur, I, von Hermann Mulert.

獨逸版「神學大全」

トーマスの思想は、民族間の障壁を越えて、神に向ふ總てのたましひの承認を要求するものであり、その言語は、西歐の教養ある總てのものによつて理解され得る一種の國際語であつた。こんな意味のことを、或る批評家がいつてゐる。併し、彼の言を無條件に信じて、トミスムをその全體に互つて承認する敬虔なたましひにも、かの所謂國際語は、遺憾ながら、異國の古語となつてゐる。だから、トーマスの近代語譯が要求される。英國のドミニクス教團の人々によつて企てられたトーマス英譯の業は、既に二つのスンマを了へ、最近クアエステイオネリスの一部にまで及んだといふことだが、獨逸のカトリック學徒聯盟の編輯による獨逸「神學大全」も、豫告の如く、昨秋萬聖節を期して、その第一卷を

公にした。

トーマスは、語られるよりも、先づ讀まなければならない。この翻譯は専門の神學者のみならず。教養ある一般の人士によつて讀まれることを目的としてゐる。併し、トーマスは、たゞ讀まれるだけではなく、研究されることを欲する。が、先づ理解されなければならない。各卷に附せられるアンメルクンクはその手引である。しかも、それはトーマスの教説を、現代の生活と思索とに關係させつゝ、明かにしようとする。それは、トミスマスの永遠な生命と超時間的な妥當性を示すこととなる。これに對して、ユンメンタールは、トーマスの個々の教説を、その全體系との聯關に於て叙述し、そこに於て如何なる意味を有するかを明かにしようとする。そしてこの二様の註釋は、兩々相俟つて、本文の完全な理解へ導くのである。そして、各頁下欄に細字で印刷された原文も、標準的な諸版の校合による信頼すべきもので、讀者の研究を要望してゐる。

併し、トーマスは、讀まれ、研究されるだけではなく、又それを以て戰はなければならぬ。目下の精神的な、宗教的な情況がそれを要求してゐる。この獨譯版は、觀念論、人間中心主義、自由主義、自然科学、唯物論、機械論等、總ての近代的なものを克服すべきトミスマス・ミリータンスの使命を帯びてゐるやうに思はれる。

獨逸版スンマの翻譯は、獨逸のドミニクス派、並びにベネディクトゥス派の學僧達の手により、全三十六卷から成る豫定である。

ボケット型で、一巻、平均五〇〇頁である。尙ほ、總索引とレクシオンとが附せられる筈である。各卷夫々、一つの問題をもち、一冊宛まとまつた書であるやうに編輯される。例へば、第一巻はスンマの第一部、問題一——一三から成つてゐるが、「神の存在と本質」と題されてゐる。一年に三冊乃至六冊宛發行され一九四〇年に完成する豫定である。各卷、布装、分賣一馬克であるが、全體の豫約者には八馬克で提供される。

Thomas von Aquin: Summa theologiae. Vollständige, unsekretzte deutsch-lateinische Ausgabe. Uebersetzt von Dominikanern und Benediktinern Deutschlands und Oesterreichs, Hrsg. v. Katholischen Akademikerverband. (Die deutsche Thomas-Ausgabe) Salzburg: Anton Pustet.

ラシュリエ著作集

フランスの傳統的な精神主義を、カント哲學によつて更新して批評的新精神主義(Neospiritualisme)に道を拓いたのはシュールラシュリエ(一八三二——一九一八年)であつた。メルカソンとアトツルとは、高等師範學校時代彼から深い影響を受けた。

ラシュリエの立場は、自ら稱したやうに、「精神主義實在論」(réalisme spiritueliste)である。眞の實在は我々の外にはなくして、我々の内にあるといふのが彼の信念である。學位論文であり又主著といつてよい「歸納の基礎」に於て、彼は先づ經驗論的實證主義を斷然斥ける。科學的認識は經驗の模寫ではなく、精神の創

造である。經驗論は、歸納の基礎づけには不充分である。經驗はたかゞ、諸事象が、互に結びつけられることを示すのみで、結合が常に、又何處に於ても、同一の仕方では起らねばならぬことを示し得ない。經驗論は懷疑論に、學問の否定に導く。歸納は、二つの原理に、即ち一つの事象が他の事象に先じ、前者が後者を規定するといふ意味の動力因と、全體がその諸部分を生産するといふ意味の目的因との兩者に依存してゐる。歸納の基礎は、思惟と思惟の諸事象に對する關係に求めなければならぬ。思惟はたゞ動力因と目的因とによつてのみ可能である。總ての現象は、目的因の法則に從屬してゐる。この法則こそ、世界の統一のよつて立つ唯一の基礎である。又他方、この法則は思惟の可能性の最高の制約である。動力因の法則によつて、自然に於ける總てのものを機械的に説明することが出来る。併し、目的因の法則によつてはじめて、生の自發性と人間の行爲の自由とは保證されるのである。自然は、倦むことなく、原因から結果を引き出す科學であると共に、絶えず新しい工夫をする藝術である。だから、自然は二つの存在を有してゐる。動力因の必然的な法則による抽象的な科學的な存在と、目的因の偶然的な法則による具體的な藝術的ともいふべき存在とである。合目的性は思惟と自然との、一つの説明ではなく、唯一の完全な説明である。世界の事象の正しい説明は原因から結果に降るのではなくして、逆に目的から手段へ昇るのでなければならぬ。それ故、普遍的な必然性ではなくして、普遍的な偶然性こそ、存在の眞の定義であり、自然のたまた

ひであり、思惟の斷定である。我々の自由と呼ぶものは、實のところ、必然性の意識である。その必然性によつて、我々の精神が考へた目的は、我々の諸行爲の繼起に於て、諸手段の存在を規定する。そして諸手段は他方目的の存在を規定しなければならぬ。かくして、終極目的は動力因の世界に導き入れられ、しかもそれを破壊することはない。目的は、悟性に活力を、死に生を、運命に自由を與へる。かくして、必然性と合目的性、物體的な運動と目的への努力、機械論と生命、自由と決定とは融和される。ラシュリエは極めて寫作であつた。彼の著書は十六折版二〇〇頁餘のもの二巻に過ぎない。彼の講義と書簡の出版は、遺言によつて堅く禁ぜられてゐる。昨秋、公にされた二冊から成る著作集は、前の二巻に收められたものと、雜誌に發表されたまゝのものとの總てを含んでゐる。しかのみならず、第一巻の卷頭には、先づアラランシュエクの講演が掲げられ、次に諸家のラシュリエ論が再録されてゐる。尚ほ、第二巻には附録として、彼が特に興味をもつて缺かきす加つたといはれる哲學會の討論が載せられてゐる。これで、ラシュリエの研究には、望み得るだけ與へられたといつてよゝ。

Oeuvres de Jules Lachelier. En 2 tomes. (Bibliothèque de Philosophie Contemporaine) Paris: Felix Alcan, 1933.
Les 2 tomes ensemble: 80,00 frs.

Tome 1: Jules Lachelier: Notice Ine à l'Académie des Sciences morales et politiques, le 29 janvier 1921 (Léon Brunschvicg)

- Temoignages sur Jules Lachelier. J.-Jouel Dauriac. H. Famille Bontroux. Hl.-C. Bouglé. W.-A. Auh.
- Oeuvres de Jules Lachelier. (1) Trois articles sur l'idée de Dieu et ses nouveaux critiques, de F. Caro. (2) Du fondement de l'induction. (3) Les conséquences immédiates et le syllogisme. (4) La proposition et le syllogisme. (5) Psychologie et métaphysique.
- Tomé 2 :
- (6) Note sur les deux derniers arguments de Zénon d'Épichète contre l'existence du mouvement. (7) Note sur le 'Philèbe'.
- (8) Les dieux d'Épichète. (9) Notes sur le pari de Pascal.
- (10) Observation de Platner.
- Appendices aux Oeuvres de J. Lachelier: Intervention de la Société Française de Philosophie.

ブライジヒ 自然の歴史と人間の歴史

視野の廣汎なこと類なく、しかも觀察の慧眼は常に事物の根底に向げられ、嚴密に科學的な眞理への意志と、詩人的創作力とを兼ね備へた歴史哲學者ブライジヒは、又専門家ならぬ社會學者として注目されてゐる。

昨年公にされた本書は、五百頁に近い大著であるに拘らず、彼の歴史哲學の序論的又序論に過ぎないものであるが、彼の主張の核心を逃して残すところがない。彼は、人間の歴史を宇宙の生成

過程の一部として理解しようとする。彼に従へば、總ての人間のなものも、世界に於ける諸事象の特殊な形式として現れるに過ぎない。それは、地球上の爾餘の總ての生活體とのみならず、又無機的世界とも同じ法則によつて發展する。生命を有しない物體の世界、生命を有しやつと不完全なたましひを有する生物の世界その上に意識をも有する、肉體とたましひの人間の世界、この三つの世界は密接に結合してゐる。生物學と社會學とが離れ得ない關係にあるのみならず、物理學が總ての科學の母である。ここに、コントとは異つた意味で、「社會的物理学」が要求される。モノコスミツシユな觀察こそ、彼自らのいふやうに、ブライジヒの立場であり、世界像の單一化こそ彼の目的である。それはあまりにも「自然主義」的な見方だとひと人はいふであらう。併し、彼は、單なる精神の崇拜者よりも、一層多く精神に就いて知り、又自然に就いて知る。それ故に、「自然主義」者とならざるを得ない。この統一觀照の立場からは、自然と精神とは程度の相違である。かの不幸な、諸科學の自然科學と精神科學との區分、概念と理解との對立は斥げなければならない。總ての現象の最も深い根底をなすものは、量的なものである。それは、我々の悟性には、數によつて現れる。我々は、精神に就いても、たましひに就いても、「大さ」「高さ」「深さ」「強さ」「軟さ」「薄さ」を語るではないか。

ブライジヒの説くところは、自然事象の人間の精神的行爲に對する優越である。しかも、彼の見方は常に歴史的であり、デュナームツシユである。彼は、何處に於ても事物の變化を見る。そし

て總ての場所に於て、同じ法則が支配してゐる。元來異つたものであり、常に異つてゐる諸物も、同じ發展の法則を示してゐる。そこに、世界事象の統一が看取されるのである。

Kurt Prossig: — Naturgeschichte und Menschheitsgeschichte.

Breslau: M. u. H. Marcus, XXXII n. 476 S. Geb. Rm.

15.00. Geb. Rm. 17.00.

「つとめ」の倫理

かつて、ひとは自己のヘルーフにヘルーフエンされてゐると考へてゐた。自己の天職を信じてゐた。併し今は、かゝる職は何處にも見出されない。又それに務めるものもない。たかだか、或る職務が興へられてゐるだけである。或る業を職とするのではなくして、たゞ或る職業があるだけである。

ルターの改革によつて神學的な、獨逸運動によつて人文主義的な意味を興へられたヘルーフの概念は前世紀以來、次第にその内容を稀薄にしてゐる。それは、もはや、産業的労働世界に於ける營利行爲以外の何物もを意味しない。

現代に於ては、本來のヘルーフは存せず、たゞアルバイトがあるだけである。労働者にとつては、彼のアルバイトのエートスは生の満足の手段であることに盡きる。彼には、自己のアルバイトに就いて反省する餘裕はない。労働者は自己を經濟的客體と感ぜ、主體とは考へない。アルバイトが高められるためには、アルバイトを規定する或る客觀的な秩序がなければならぬ

い。併し、現代の社會には、かゝる客觀的な、何人もその價値を承認する、生の秩序は存しない。ヘルーフが、單なる個人的な生の維持の手段としてではなく、自己がそれに「召されたつとめ」の意味に理解されるやうな秩序は、存在として興へられてゐるのではなくして、課題として興へられてゐる。即ち、自己の職務によつてその全體に與り、その全體に於て、彼の生が意味を興へられるやうな秩序が要求されるのである。ヘルーフは民族への奉仕となり、民族はこの意味を興へる全體とならなければならぬ。たゞ、新しい民族の秩序のみが、ヘルーフを再び可能ならしめる。たゞ、政治的な意志のみがヘルーフの危機を救ふのである。併し、政治的なもの、本質は、集團の利己主義、黨派の政略からではなくして、ホリス全體への關係からとられなければならない。そのとぎにのみ、ヘルーフはその本來のエートスを恢復する。

Ethik des Berufes: Sonderausgabe der Blätter für Deutsche Philosophie: Zeitschrift der Deutschen Philosophischen Gesellschaft) Hrsg. v. Hugo Fischer & Günther Ipsen. Berlin: Junker & Dinnhaupt, 128 S. Rm. 4.80

Inhalt: Zur Ethik des Berufes, von Hans Eysenck; Das Ethos der Freunde und der Beruf, von F. Meiss; Beruf und Politik, von Ernst Wilhelm Eschmann; Beruf und Berufung, von Heinrich Barth; Die Arbeit in der industriellen Welt, von Richard Gothe; Die ökonomische Lage des Ar-

Beitrag, von Richard Wold; Der Arbeiter im Betrieb, von Helmut Stein; Der Beruf des Unternehmers, von Heinz Landmann; Unternehmer-sein als lebendige Aufgabe, von Gerhard Bahlsen; Das Amt als Situation des Berufes; Seine Entwicklung in der Krisis der Gegenwart, von G. A. Salander; Der Soldat, von Konrad Hecker.

新刊書目

Jagers, Werner; *Parteien: Die Formung des griechischen Menschen*. Bd. 1. Berlin: Walter de Gruyter & Co., VII, 513. Geb., Rm. 8.00.

Rey, A.:— *La science dans l'antiquité*. Tome 2: *La naissance de la science grecque*. (L'Évolution de l'humanité) Paris: Renaissance du Livre XVII, 553 pp., 40. frs.

Bowra, C. M.:— *Ancient Greek literature*. (Home University Library) London: Thornton Butterworth, 2s. 6d.

Voigt, Christian:— *Uebersetzung und Entscheidung bei Homer*. (Pan-Bücherei, Gruppe: Philosophie, Nr. 16) Berlin: Pan-Verlag, Rm. 4.50

Rieker, K.:— *Panmenides*. (Frankfurter Studien zur Religion und Kultur der Antike, Bd. 5) Frankfurt a. M.: Klostermann, 99 S., Rm. 6.00

Platon:— *Oeuvres complètes*. Tome 6: *La république*.

Partie 2: Livre 4-7. Texte établi et traduit par Émile Chambry. (Coll. Budé) Paris: Les Belles Lettres, 129, 30. frs.

Riedl, O.:— *Grundbegriffe der stoischen Ethik*. (Problema, Heft 9) Berlin: Weidmann, X, 209 S., Rm. 14.00

Grahmann, Martin:— *Aristoteleskommentare des Simon von Faversham: Handschriftliche Mitteilungen*. (Sitzungsberichte der Bayerischen Akademie der Wissenschaften Phil.-hist. Abt. Jahrg. 1933, Heft 3) München: Beck, 40 S., Rm. 2.50

Montaigne:— *Essais*, en un volume: Texte, notes, variantes, bibliographie, traduction nouvelle des citations latines, glossaire, etc., établie par Albert Thibaudet. (Bibliothèque de la Pléiade) Paris: Gallimard, 68. frs. (Ce prix de 68 frs. s'entend pour la souscription et sera majoré dès la parution)

Montaigne:— *IV^e centenaire de la naissance de Montaigne: Livre des conférences*. Édité sous les auspices de l'Administration Municipale. Bordeaux: Éditions Dejean.

Spinoza:— *Septimana Spinozana: Acta conventus octo-meni in memoriam Benedicti de Spinoza die natalis trecentissimi*. Hague *Comitis Habiti curis Societatis Spinozanae*

editer. (Commemoration of the tercentenary of the birth of Spinoza; The Hague, Sept. 1932) The Hague: Martinus Nijhoff. XII, 321 pp. (in Dutch, English, French, German & Italian) 8guilders, bound 9.50 guilders.

Noté, Georges :—*La logique de Hegel*. 2. éd. Paris: J. Vrin, 189 pp. 30. frs.

Knight, A.H.J.:—Some aspects of the life and work of Nietzsche, particularly of his connexion with Greek literature and thought. London: Cambridge University Press, 194 pp. 10s. 6d.

Liebert, A.:—Wilhelm Dilthey. Zum 100. Geburtstag des Philosophen. Berlin: Mittler. VI, 77 S. Rm. 2.50

Princk, Eugen :—Die phänomenologische Philosophie Edmund Husserls in der gegenwärtigen Kritik. Mit einem Vorwort von Edmund Husserl. (Pan-Bücherei (rrippe: Philosophie, Nr. 18). Berlin: Pan-Verlag. 63S. Rm. 2.00

Metzger, Arnold, *Phänomenologie und Metaphysik: Das Problem des Relativismus und seiner Überwindung*. Halle (Saale): Max Niemeyer. XVI, 269 S. Rm. 9.00, geb. Rm. 11.00

Pfänder, Alexander :—*Die Seele des Menschen: Versuch einer verstehenden Psychologie*. Halle (Saale): Max Niemeyer. VIII, 416 S. Rm. 9.00, geb. Rm. 10.80

Scheler, Max :—*Vom Ewigen im Menschen*. Tugckstücke Volksausgabe. Rm. 4.80

Scheler, Max :—*L'homme du ressentiment*. (Coll. Les Essais) Paris: Gallimard. 30. frs.

Pfeiffer, J.:—*Existenzphilosophie: Eine Einführung in Heidegger und Jaspers*. Leipzig: Felix Meiner. 64 S. Rm. 2.50

Jährlich, W.: *Intentionalität und Sinn: Prolegomena zur Normlehre*. Halle (Saale): Max Niemeyer. 48 S. Rm. 2.50

Höhm, Friedrich :—*Ontologie der Geschichte* (Heidelberger Abhandlungen zur Philosophie und ihrer Geschichte, Heft 25) Tübingen: Mohr. III, 140 S. Rm. 7.20

Klinges, Ludwig :—*Vom Wesen des Rhythmus*. Kampen: Kampmann. 64S. Rm. 2.20

(Hehlen, A.:—*Thyorie der Willensfreiheit*. Berlin: Junker & Dinnhaupt. VII 166 S. Rm. 6.00

Litt, Theodor :—*Die Stellung der Geisteswissenschaften im nationalsozialistischen Staat*. Leipzig: Quelle & Meyer. 24 S. Rm. 0. 80

Jancz, Pauli :—*Notes et souvenirs*. Paris: Gauthier-Villars. 344 pp. 30 frs.

Dercolle, Maurice :—*Les problèmes de l'induction*. *Préface de André Lalande*. Paris: Félix Alcan. 16°, 148 pp. 12 frs.

Paulhan, Fr.:—*La morale de Plérome*. 4. éd. Paris:

- Felix Meun. 16°, 76 pp. 12 frs.
- Loisy, Alfred :- La religion d'Israël. 2. éd. revue et augmentée. Paris; Em. Nourry. 328 pp. 30 frs.
- Loisy, Alfred :- La naissance du christianisme. Paris; Em. Nourry. 448 pp. 36 frs.
- Forkes-Jackson, F. J. :- Fäuschtis Phamphilt: Bishop of Cieseren in Palestine and first Christian historian. London: Heller. 4s. 6d.
- Füssfeldt, Otto :- Einteilung in das Alte Testament unter Einschluss der Apokryphen und Pseudepigraphen. (Neue Theologische Grundriss, Bd. 2.) Tübingen: Mohr. Km. 15.00, geb. Km. 17.00
- Knopf, Rudolf :- Einführung in das Neue Testament: Bekunde des Neuen Testaments; (sittliche und Religion des Christentums. 4. Aufl. völlig neu bearbeitet von Hans Lietzmann und Heinrich Weinel. (Sammlung Töpelmann, Bd. 2.) Griesen: Töpelmann Km. 9.00, geb. Km. 10.75
- Kautenbusch, Ferdinand :- Die deutsche evangelische Theologie seit Schleiermacher. In 2 Teilen Teil 1: Das Jahrhundert von Schleiermacher bis nach dem Weltkrieg. 6. photomechanische Aufl. Teil 2: Zeitvernde nach in der Theologie. Griesen: Töpelmann. Teil 1, Km. 4.20; Teil 2, Km. 2.00; Beide Teile in einem Bande geb. Km. 7.50.
- Lecky, G. van der :- Phänomenologie der Religion. (Neue Theologische Grundriss, Bd. 1.) Tübingen: Mohr. XII. 66s, Km. 15.00, geb. Km. 17.00
- Mensching, Gustav :- Zur Metaphysik des Ich: Eine religionsgeschichtliche Untersuchung über das personale Bewusstsein. (Aus der Welt der Religion, Religionswissenschaftliche Reihe, Heft 21) Griesen: Töpelmann. 108 S. Km. 3.50
- Lindsay, A. D. :- Christianity and economics. London: Macmillan. 12°. VI, 177 pp. 5s.
- Barth, Karl :- Für die Freiheit des Evangeliums. (Theologische Existenz heute, Heft 2) München: Kaiser. 16S. Km. 0.50
- Barth, Karl :- Reformation als Entseheidung. (Theol. Existenz heute, Heft 3) München: Kaiser. 24S. Km. 0.60
- Dasgupta, Surendranath :- Indian idealism. London: Cambridge University Press. XXVI, 206 pp. 10s. 6d.
- Thomas, Edward J. :- The history of Buddhist thought. (The History of Civilization) London: Kegan Paul. XVI, 314. 15s.
- Realexikon zur deutschen Kunstgeschichte. Unter Mitwirkung von zahlreichen Fachleuten aus Wissenschaft und Praxis. Hrsq. v. Otto Schmitz. Stuttgart: L. B. Metzlersche Verlagsbuchhandlung. (Die Ausgabe des Werkes erfolgt in Lieferungen, jede Lieferung zu 4 Druckbogen (64 Seiten) in

Lexikonformat. Insgesamt ist die Ausgabe von etwa 50 Lieferungen vorgesehen, was einem Umfang von 4 Bänden zu je etwa 50 Bogen entspricht. Die einzelnen Lieferungen erscheinen in etwa zweimonatlichen Abständen. Jeweils nach Fertigstellung eines Bandes wird eine Einbanddecke ausgedruckt werden. Der Bezug der 1. Lieferung verpflichtet nur zur Abnahme des etwa 12 Lieferungen umfassenden 1. Bandes. Jede Lieferung des 1. Bandes kostet anstatt Rm. 6,50 für Subskribenten nur Rm. 5,85. Dieser Vorzugspreis erfährt spätestens mit Vollendung des 1. Bandes. Die Subskribenten des 1. Bandes genießen ferner das Vorrecht, auch die weiteren Bände mit gleicher Preisermäßigung zu beziehen.]

L'Université de Paris du moyen âge à nos jours, Paris: Larousse. 224 pp. 25 frs., rel. 30 frs. (La plus riche documentation iconographique que l'on ait encore réunie sur l'Université de Paris et des différents Facultés.)

La Science Française. Nouvelle éd., entièrement refondue. 2 vols. Paris: Larousse. Chaque vol. 28 frs.; rel. 38fr.— (La première édition de cet ouvrage a paru en 1915, sous les auspices du Ministère de l'Instruction Publique. La présente édition en 53 chapitres, signés des noms les plus éminents—H. Bergson, E. Leroy, E. Durkheim, etc.—le

tableau complet de l'évolution scientifique, en marquant la part qui revient à la France dans le progrès général.)
Cambridge Modern History. Cheap Edition. (1934) In 13 vols. London: Cambridge University Press. 7s. 6d. each; set 98s.

Concise Oxford French Dict. many. Ed. by M. Abel Chevalley. London: Oxford University Press. (The work is uniform in size and appearance with the "Concise Oxford English Dictio. any" and edited on the same "Powellian" principles.)
(以上服部英次郎譯)